

第25回

柳波賞受賞作品集



群馬県沼田市・沼田市教育委員会

第 25 回

柳波賞

入賞者名簿

◎ 柳 波 賞 (敬称略)			
区 分	作 品 名	住 所	氏 名
柳波賞	シャボン玉のうた	愛 媛 県 松 山 市	堤 善 宏

◎ 一 般 の 部			
区 分	作 品 名	住 所	氏 名
優秀賞	しあわせ	群 馬 県 前 橋 市	中 澤 ひろみ
佳 作	こらっ！カラス	愛 知 県 西 尾 市	いしほみずや
〃	おじいさんの犬	京 都 府 亀 岡 市	西ヶ開 公 一
〃	にじんだ月	埼 玉 県 新 座 市	赤 城 条 治
〃	まきばのすずめ	大 分 県 竹 田 市	油 布 晃
〃	セミのうた	山 口 県 下 関 市	豊 崎 えい子

◎ 小中学生の部			
区 分	作 品 名	学校名・学年	氏 名
優秀賞	はじめての海	沼田市立升形小学校 小2	内 海 陽 葵
佳 作	田んぼの空	沼田市立沼田南中学校 中1	原 澤 研 地
〃	夏の雲	沼田市立沼田小学校 小3	高 橋 圭 吾
〃	がい灯	沼田市立沼田北小学校 小5	山 崎 いち花
〃	学校の帰り	沼田市立沼田東中学校 中2	内 海 颯 斗
〃	なつ休みのしゅくだい	沼田市立川田小学校 小2	本 多 桃 佳
〃	タヌキに注意	昭 和 村 立 南 小 学 校 小6	澤 浦 光 希
〃	赤色・黄色	沼田市立薄根中学校 中1	小 川 明 理
〃	わたしのまえば	沼田市立沼田北小学校 小1	富 澤 遙 花

◎ 地域別応募者数（一般の部・小中学生の部）

北海道	11	青森県	3	秋田県	1	岩手県	2	山形県	8	宮城県	6
福島県	9	茨城県	13	栃木県	9	群馬県	675	埼玉県	33	千葉県	23
東京都	57	神奈川県	42	山梨県	2	長野県	8	新潟県	5	富山県	5
石川県	3	福井県	2	静岡県	13	愛知県	18	岐阜県	4	三重県	5
滋賀県	7	京都府	17	大阪府	20	奈良県	4	和歌山県	2	兵庫県	15
鳥取県	3	島根県	3	岡山県	2	広島県	7	山口県	3	香川県	4
愛媛県	3	徳島県	0	高知県	2	福岡県	11	大分県	5	熊本県	3
佐賀県	3	長崎県	5	宮崎県	1	鹿児島県	8	沖縄県	1	国 外	0

《応募総数 1,086》

講 評



審査員 おか 岡 だ 田 よし 芳 やす 保

柳波賞

「シャボン玉のうた」あなたのことはわすれない／最終のフレーズがときめく。シャボン玉は消えてなくなるけど、その一瞬に映るあなたを思う。ロマンスは消えない。不在のポエジーが美しい。

優秀賞＜一般の部＞

「しあわせ」しあわせを繰り返し呪文する。しあわせは自然の中に、身近にあるのに気づかないでいる。リフレーションで、さらに強調されて印象深い。

佳作賞

「こらっ！カラス」畑仕事をしている山村の風景の中でカラスがスイカやももなどを食べあらず。カラスによる被害は深刻なのだろう。テーマがユニークだ。「おじいさんの犬」亡くなったおじいさんと犬の小さな物語のような思いやりが感じられる。「にじんだ月」深い深い／水の底に／リフレーションが意味深く生と死を暗示し、金色ににじんだ月が見える。「まきばのすずめ」すずめの動きにリズム感があり、まきばの風景が広がってくる。「セミのうた」夏から秋にかけてのセミの一生が、なき声の中に消えていくようだ。

優秀賞＜小中学生の部＞

「はじめての海」はじめての船での旅。船上での感動と不安の様子がうまく表現され／大きな海／青い空／

に希望にみちた気持ちが伝わってくる。

「田んぼの空」岩手の水田風景が表現されていて／弟が田んぼにおっこちた／でいっぺんにリアルになる。「夏の雲」変幻する夏の雲の中に魚やワニ、マンモスなどを出現させた空の絵本。「がい灯」がい灯の光が美しく感じられスクリーンの 1 シーンのような。「学校の帰り」学校の帰り道での観察力。しっかり川の魚を追いかけている視線が感じられる。「なつ休みのしゅくだい」しゅくだいに足が生えて／とてもユニークでこどもの気持ちがストレート。「タヌキに注意」標識のタヌキに命をあたえて大変おもしろい作品。「赤色・黄色」黄色から赤いとなんぼが赤く染まった山へ飛んでゆく情景が美しい。「わたしのまえば」とうもろこしやきゅうりがかじれない実感が伝わってくる。

審査員略歴

詩 人	現代書表現作家
詩画集	＜隅屋夢幻＞の 16 のはなの詩による版画集 (セリグラフ・金子英彦) その後、縮刷版で刊行
詩 集	「光・風・空」「出口なし」「愛の蜃気楼」
展覧会	「夢幻の書展」(東京)(個展) 「住谷夢幻 3.11 フクシマ」(ウズベキスタン) 「住谷夢幻」＜書表現の世界＞＜墨のアフォーリズム＞ (全て個展)＜夢のメタファー＞ ＜書で詩的宇宙を書き込みたい＞ ＜墨の純粋なことばに狂喜する＞
	「沙鷄会」「楳円会」(グループ展)
	第 6 回 NHK 関東甲信越地域文化賞受賞
	元群馬県立図書館長 元群馬県立土屋文明記念文学館長

優しさに溢れており、3 連目の「しあわせは 人のことなら……」の言葉は心に染みる作品でした。また、同賞の「はじめての海」は、初めて船に乗った情景を上手く描写しており、子どもならではの驚きや感動を捉えた作品でした。

今回の小中学生の部の作品は、新型コロナウイルスによる行動制限から解放され、家族や友人と出かけられた時の思いや、新たな経験との出会いに心躍らせている様子がうかがえる作品が多く見られました。柳波賞の作品を通じて、日々の生活の中で生まれる純粋な気持ちを、改めて見つめ直す機会にしていいただければ幸いです。

結びに、お忙しい中、ご審査いただきました高階杞一先生、岡田芳保先生、黒木瞳先生をはじめ、関係皆さま方へ心より敬意を表し、感謝申し上げます。今後も、ふるさと沼田の魅力や林柳波先生の素晴らしい功績を全国に発信していきたいと考えておりますので、引き続き皆さまのご協力を賜りますとともに、たくさんの素晴らしい作品が寄せられることを祈念いたしまして講評といたします。

はやし 林 りゅう 柳 は 波

1892 年（明治 25 年）、群馬県沼田市材木町に生まれる。本名は照壽。沼田尋常小学校高等科在学中に、村上鬼城に俳句を学ぶ。卒業後、里次（長兄）を頼って上京。1910 年（明治 43 年）に明治薬学校（現・明治薬科大学）を卒業し、同年薬剤師国家試験に合格する。のちに明治薬学校の講師、図書館長を務める。

1918 年（大正 7 年）、童謡運動が盛んとなり、童謡詩人の野口雨情の影響で詩の制作に取り組む。唱歌、童謡、民謡、校歌など、1,000 余編の作品を遺し、代表作に、「おうま」「ウミ」「うぐいす」「スキーの歌」がある。ほか、詩集「木蓮華」「水甕」「山彦」を出版し、郷土や母を詠った童謡・民謡等が多数載っている。

国民学校教科書編集委員、音楽著作権協会常務理事、日本詩人連盟相談役等で活躍し、1972 年（昭和 47 年）に勲四等瑞宝章を受賞する。

1974 年（昭和 49 年）82 歳没。1989 年（平成元年）沼田市名誉市民に顕彰された。



【柳 波 賞】

本市名誉市民で童謡作詞家である林柳波の功績を顕彰するため、童謡詩を一般公募するもの。一般の部・小中学生の部で構成され、最高賞から順に、柳波賞・優秀賞・佳作を決定する。



沼田市長 ほし 星 の 野 みのる 稔

『柳波賞』は、本市の名誉市民で、童謡作詞家である林柳波先生の功績を顕彰するため、平成 11 年に創設されました。今年で第 25 回を迎えた『柳波賞』は、全国から 1,086 編もの応募をいただきました。作品をお寄せいただいた皆さま、また、公募に際しご協力いただいた皆さまに、厚くお礼申し上げます。

審査に際し、個性豊かな作品の数々を拝読させていただき、日常の何気ない瞬間や繊細な心の動きを取り上げた作品、そこに込められた思いに感動を覚えました。

特に柳波賞の「シャボン玉のうた」は、3つのシャボン玉が消えてしまった物悲しさの中にも、小さな希望や未来に向かって進む光が感じられ、シャボン玉の儚さと、消えることのないあなたへの気持ちを表現した素晴らしい作品でした。優秀賞の「しあわせ」は、

講 評



審査員長 ^{たか}高 ^{しな}階 ^き杞 ^{いち}一

柳波賞「シャボン玉のうた」は、前半、野口雨情の童謡「シャボン玉」と似たような展開だが、後半、「あなた」が出てきて独自の作品になった。この「あなた」とは誰だろう。幼い頃に遊んだ友達か。別れた恋人か。それとももうこの世にいない誰か大切な人だろうか。いろんな想像が湧いてくる。

優秀賞「しあわせ」は各連の情景がくっきりと見えてくる。語調もやわらかく、作者の優しさが詩から伝わってくる。最後の着地も見事。佳作の「こらっ！カラス」はユーモラス。ラストのかかしの登場でのどかな山里の情景が見えてくる。「おじいさんの犬」は亡くなったおじいさんを想う犬の気持ちが切々と伝わってくる。「にじんだ月」はダム湖に沈んでいく村を描いた作品。最終連は幻想的で秀逸。ただ童謡詩としては散文的で長過ぎるのが難点。「まきばのすずめ」は牧場の朝のさわやかな情景が伝わってくる。「セミのうた」からは脱皮したセミの行方を思いやる作者の優しい思いが伝わってくる。

小中学生の部・優秀賞「はじめての海」は、初めて海へ行き、船に乗ったときの驚きと感動がまっすぐ伝わってくる。表現も巧みで、作者が小学2年生と聞い

たときには驚いた。「田んぼの空」は最後の1行が最高！「夏の雲」は空想力が豊かで、読んでいて楽しくなってくる。「がい灯」は街灯を擬人化して書いていて、2連目が特にいい。「学校の帰り」はただ学校の帰りに川で泳ぐ魚を見たというだけの作品だが、じっと川を見つめている姿から作者のさまざまな思いが伝わってきた。「なつ休みのしゅくだい」は宿題に足が生えるという発想がおもしろい。「タヌキに注意」は標識のタヌキを見て、ハッとした一瞬がうまく捉えられている。「赤色・黄色」はトンボを通して季節の変化が美しく描かれている。「わたしのまえば」は前歯が抜けたときの様子がかわいい。

審査員略歴

詩人 日本現代詩人会、日本文芸家協会 各会員
詩誌「ガーネット」主宰
詩集 「早く家へ帰りたい」「空への質問」「水の町」
ハルキ文庫「高階杞一詩集」等
戯曲 「雲雀の仕事」他
第1回キャビン戯曲賞入賞(「ムジナ」)
第40回H氏賞受賞(「キリンの洗濯」)
第4回三越左千夫少年詩賞受賞(「空への質問」)
第8回三好達治賞受賞(「いつか別れの日のために」)
第21回丸山薫賞受賞(「千鶴さんの脚」)



審査員 ^{くろ}黒 ^き木 ^{ひとみ}瞳

この度の皆様の詩を拝見し、一般の部(大人)より、小中学生の部の方が大人っぽく感じました。大人は記憶への回帰、子供は未来へ向かうというそれぞれのベクトルが詩に現れているのかなと思いました。柳波賞は、「シャボン玉のうた」。ネガティブな気持ちの中にも希望を見つきたい作者の想いがロマンチックな作品となっています。「しあわせ」は、優しい気持ちが全面に溢れ出ていました。どうか、幸せを、探してください。「こらっ！カラス」は、最後に、“かかし”だったんだって分かって、面白く読みました。作者の意図にまんまとハマった詩でした。「おじいさんの犬」は、絵本にしたいようなファンタジックに溢れた詩でした。「にじんだ月」は、いい詩でした。多分、ダムでなくなった町の思い出を書かれたのだと思います。もう少し、言葉を端的に詩として完成されていたらすごい作品になっていたと思います。私は好きです。小中学生の部の優秀賞は、「はじめての海」。低学年でこれだけの観察力は、圧巻です。“ふねがとおったあと

に白い道 まるでふねの足あとみたい”という2行は、秀逸でした。「田んぼの空」は、こうきたか！という着地の詩。お墓参りの気持ちと弟の様子のギャップがナイス！。「なつ休みのしゅくだい」「タヌキに注意」「わたしのまえば」など、ユニークでキュートな感情表現の詩に私の心は踊りました。「学校の帰り」は、一見日常の様子を書いただけのように思えますが、作者の孤独や想いの伝わる場所に共感が持てました。受賞の皆様の詩の感想を全て書ききれなくて申し訳ありませんが、この度も、皆様の詩へ真摯に向かわれる姿勢に感動した25回目の柳波賞でした。

審査員略歴

女優・映画監督・舞台演出家
詩 集 「長袖の秋」「夜の青空」
「恋のちから愛のススメ」
翻訳絵本 「すきなのだあれ?」「たからものさがし」
エッセイ 「わたしが泣くとき」「夫の浮わ気」
「モン・モエ」「もう夫には恋はできない」
「ひとみごちて」「私の場合」
「母の言い訳」(第23回日本文芸大賞エッセイ賞受賞)

柳 波 賞

シャボン玉のうた

堤 善 宏

シャボン玉

ふいたらみつつとんでゆく

ひとつはなぜにはこばれて

とちゅうではじけてきえちやった

ひとつはそらにむかうけど

とどかないままきえちやった

ひとつはあなたへたどりつき

てのひらにそつとのりました

シャボン玉

きえちやったけど

あなたのことはわすれない

一般の部 優秀賞

しあわせ

中 澤 ひろみ

しあわせは トンボみたいな ものかしら

虫とりあみを ふりまわす

男の子の背に ほら、とまっているよ

しあわせは 虹のような ものかしら

山のふもとの 小さな庭で

あそんでいる子 ほら、虹のなか

しあわせは 人のことなら よくわかる

しあわせは 人のことなら よく見える

しあわせは お月さまの ことかしら

わたしが歩くと どこまでも

ついてくるのに ねえ、とどかない

こらっ！ カラス

いしほみずや

1. こらっ！ カラス
畑のスイカを つつつくな
お前にも 暮らしがあるだろうが
早く どこかに 飛んでゆけ
じいちゃん ほうきを 振りまわす
2. こらっ！ カラス
すももや びわを とつてく
お前にも 家族があるだろうが
早く どこかに 飛んでゆけ
ばあちゃん 大声 はりあげる
3. こらっ！ カラス
畑の豆を ほじくるな
お前にも 言い分あるだろうが
早く どこかに 飛んでゆけ
畑のかかしが にらんでる



おじいさんの犬

西ヶ開 公一

お向かいさんの庭先に
白い老犬すわってる
おじいさんを待つている
とてもやさしいおじいさん
それを見ていた野良猫が
お花をそつとくれました
青紫のりんどうです
おじいさんの好きな花
猫は知っていたのです
おじいさんが虹の橋
さつき渡って行ったこと
天国のドア開いたこと
犬はわんわん泣きました
そしてお空を見あげると
きれいな虹が見えたのです
犬はさよならいいました
雲がお顔に見えました
につこり笑うおじいさん
二匹はずつと見てました
空が茜に染まるまで



まぎばのすずめ

油布 晃

- 一
まぎばのすずめ
なにしてる
ともだちきたよ
さくのうえ
みんなでならび
はなしてる
- 二
まぎばのすずめ
なにみてる
べこがあくびを
してるとこ
みんなでならび
みています
- 三
まぎばのすずめ
なにたべる
だいちがこぼす
ひかるもの
みんなでうまいと
いただくよ
- 四
まぎばのすずめ
なにうたう
のどかなまぎば
あさのうた
みんなであわせ
うたいます

タヌキに注意

澤 浦 光 希

今日は楽しいドライブ
すつと見えてきた黄色の標識
タヌキがこっちを見ている
アッ、タヌキに注意
標識の中からこっちを見ている
楽しそうなタヌキ
だけど、ちょっとたいくつそう
本当は飛び出したいよね
本当は走り回りたいよね
そうだ、僕が代わりに走り回るね
また会いに来るからね



赤色・黄色

小 川 明 理

真夏の空といつしよにね
山からとんぼがやってくる
仲間をたくさんひきつれて
田んぼの上をとんでるの
最初は黄色い赤とんぼ
赤い夕日をあびるたび
日に日に赤みが満してゆく
山に帰るその時期に
最後は真っ赤な赤とんぼ
秋のこの葉といつしよにね
仲間をたくさんひきつれて
赤く染まったあの山へ



わたしのまえば

富 澤 遥 花

まえばが2ほんぬけた
とうもろこしが
かじれない
きゅうりが
かじれない
おとなになるって
たいへんだな

学校の帰り

内海 颯斗

学校の帰りに城ぼり川を通った。
小さい魚がたくさんいた。
その魚は食べれるのかなー、
と思いながら帰った。
次の日の帰りも魚がいた。
何食べてるのかなーと思いながら帰った。

なつ休みのしゅくだい

本多 桃佳

あれあれ
しゅくだいがない
たくさんさがしても見つからない
たぶんしゅくだいに足が生えて
どつかにいったんだ
っていったらおこられたけど
やっぱり足が生えてどつかにいったんだ
このままみつからなくても先生にしようじき
に言えばおこられないかもしれない
だって足が生えてどつかにいったんだから
しょうがないよね

にじんだ月

赤城 条治

夏休みが 始まって
お母さんの 田舎へ行った
その家は 山のすぐそばで
空はせまくて 暗かった
庭のトマトは まだ青く
見たことのない 虫がいた
歩いてすぐの 温泉は
僕にはとても 熱かった
細い目をして じいちゃん
じいっとお湯に 浸かってた
そして それはいつか
深い深い 水の底に
お母さんを 見送って
駅から帰る 暗い道
後ろをずっと ゆっくりと
まんまるの月 ついてきて
不思議だなあと 見上げると
空をムササビ 横ぎった
そして それはいつか
深い深い 水の底に
熱いお湯にも なれてきて
夏休みが 終わる頃
お母さんが 迎えに来ると
じいちゃんは そう言って
小麦粉から うどんをつくり
かたいそいつを 二人で食べた

そして それはいつか
深い深い 水の底に
冷たくて黒い 湖の底に

ゆらゆらゆれる つり橋の
その真ん中 あたりには
むかでのそのそ 歩いてて
それをとかがが ねらってた
秋がくると 谷ちゅうが
赤や黄色に なるらしい
そして それはいつか
深い深い 水の底に

月は金色ににじむ

つり橋は かすかにゆれて
その上を 魚がゆくだろう
空を飛ぶように
にじんだ月に向かつて

セミのうた

豊崎 えい子

夏の朝
コンクリートの
丸いはしらに
セミのぬけがら
見つけたよ
仲間のところへ
行けたかな
夏の盛り
セミのコーラス
ミンミンジジ
あの日のセミも
いっしょかな
仲間のセミと
いっしょかな
秋がきて
ツクツクボウシ
声すみわたる
仲間もきいて
いるのかな
どこかできいて
いるのかな

小中学生の部 佳作

夏の雲
高橋圭吾
ねずみがチーズを食べている
魚とワニがおいかけてっこをしている
ティラノサウルスが
ガオーと口を開けている
カニがはさみをチョキチョキしている
トンネルをくぐったら
大きなキバのマンモスが
山の上にドシンとのっかっている
いろんな雲 夏の雲

小中学生の部 優秀賞

はじめての海
内海陽葵
ふねがゆれる あるくのもたいへん
バランスとつてせきへすわる
ゆらゆら ちよつと気もちわるい
とおくに大きいはずのふね
いっぱいいうているけど小さく見える
たいようの光でキラキラひかっている
ふねが出発 かぜがきもちい
ふねがとおったあとに白い道
まるでふねの足あとみたい
大きな海 青い空
どこまでも
どこまでもつづいている
すばらしいせかいがひろがっている



小中学生の部 佳作

田んぼの空
原澤研地
お墓参りに行った
岩手の田んぼから見た空は
鳥がのびのびとんでいた
山がのびのびしてみえた
草のしげったあぜ道は
なんだかのびのびしてみえた
弟も楽しそうだった
弟が田んぼにおっこちた

がい灯
山崎いち花
がい灯には 友がいる
夜に集まる 虫たち
わいわい がやがや 楽しいね
がい灯には 気がある
きのう 足元で泣いてた男の子
今日は 元気になったかな
がい灯には 夢がある
太陽みたいに光りたい
みんなが道に まよわぬように

